



緑中だより

平成30年度 NO. 8
【発行者】
北九州市立緑丘中学校
校長 永尾 敦子

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

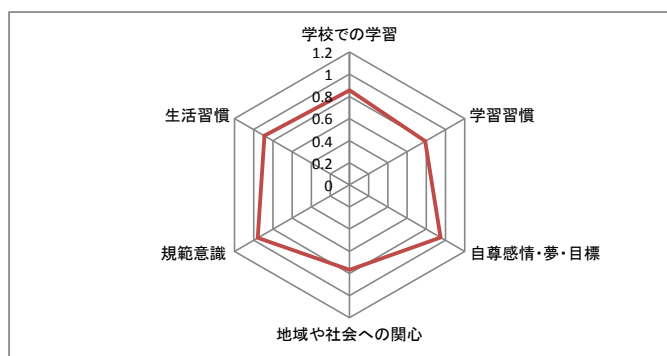
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語知識理解は基礎ができていた。 ・書く力を問う問題や漢字を書くことに課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	下回っている。
国語B	・全国平均正答率を下回っているだけに、文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある	下回っている。
数学A	・指数を含む正の数と負の数の計算の正答率は全国よりもかなり高かった。空間認識や文字式、方程式を始め、各計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。	下回っている。
数学B	・全国平均をかなり下回った。与えられたいろいろな事象を数学的に解釈し、的確に処理する類いの問題は、正答率もかなり低く、問いに対する理解力に大きな課題がある。	下回っている。
理科	・自然事象に対する興味、関心が低く、学習内容の定着に達していない。知識、理解に関する問題は、ある程度できるが、思考判断を問う問題は、一層の努力が必要である。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・家庭での学習は、全体的に学習時間が少なく、また計画的になされておらず、学習習慣が身につけていない。
・学習面においては、授業の中での目標(めあて)を理解しているが、まとめや振り返りの整理につががっていない生徒が多い。自分の考えや思いを文章にしたりまとめることは成果がみられるが、目標到達にいたっていない。また生徒間での話し合う活動も課題である。今後一層の継続された取組が必要であり、成果となって現れるような授業内容を改善していくことが重要がある。
・生活習慣では、規則正しい生活を心がけるように粘り強く指導していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・「わかる授業」づくり5つのポイントを職員に徹底するとともに、授業構想シートを活用して授業内容の充実を図る。
・定期考査前には、試験勉強の時間を確保させるために、中間考査は2時間、期末考査は3時間の時間を設けた上で、各教科の質問教室を割り当てる。
・放課後10分間の教え合い活動(緑中タイム)を継続的に実施し、質の向上を図る。
・体力向上の取組を積極的に行い、基礎体力をつける運動を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間が少ないため、各学年の毎日の自学ノートの充実をはかること。また定期的に各教科から課題を出すことも検討する。学習に対する個に応じたアドバイスや助言なども定期的に行う。
・全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。そのため、学校だよりや学校ホームページを活用する。
・定期考査前における計画表を立てさせ、保護者に協力をお願いし、勉強時間の確保と考査1週間前からのスマホやTV電源OFFの実施を呼びかける。